

演題：なぜ、スマトラにマングローブを植えるのか？

株式会社ワイエルインベスト 山本亮

現在世界規模での森林破壊が問題になっているのは周知の事実ではありますが、広大な熱帯雨林を所有し、豊かな自然を擁するよう思えるインドネシアでも森林破壊は進んでいます。焼畑農業、パームヤシプランテーションのための森林伐採、そしてエビ等の養殖地開拓・パルプ材確保のためのマングローブ林伐採等によるものです。

私ども株式会社ワイエルインベストは、1970年～1995年の25年間、前身である山本木材産業株式会社時代にインドネシアを始め、世界各地から多くの原木を輸入していました。1995年に原木輸入を廃業してからは、それまでの木材の大量輸入の恩返しとして、そして地球温暖化対策のためのCO2削減に少しでも役立つことができればと、かねてより気になっていたインドネシア・スマトラ島の干潟でのマングローブ植樹を開始し、現在、琉球大学馬場教授、佐賀大学野瀬教授のご指導のもと、約1,350万本を植林済みです。このプロジェクトはスマトラ島東海岸2,000kmを30年かけて植林していく決意で取り組んでいます。そのためにはまず、最初の植林地100km～200km(約1万～2万ha)の排出権及び色々な方法で資金を作りだしながら2,000km植林完成を目指しています。

この植林プロジェクトはインドネシア政府、現地住民の協力で成り立っています。植林での温暖化対策は勿論ですが、現地住民の雇用確保、またマングローブ林が成長することで漁場が豊かになり、結果的に現地の人々の生活も豊かになるものでなければならぬと考えています。昨年12月には、COP13バリ島会議でインドネシア政府からの誘いでこの植林事業をプレゼンテーションし、好評の中に終わりました。

今日、新聞・テレビ等の各メディアでも環境についての報道を見ない日は無いほど環境問題に対する関心は高まっています。しかし、京都議定書で定められた2008～2012年までの達成目標である6%を削減するには大変厳しい状況にあります。この植林事業を知って頂くことで、一人ひとりが実際にどう行動すれば地球温暖化を防ぐことができるのか、現実感を持って考えるきっかけになればと私は期待しています。